

GPS-777 クロック入力トランスポートの導入 (その一)

—設定条件による音質評価—

1. 外部クロック入力トランスポートの導入の経過

GPS-777 発売後 CD トランスポートに GPS-777 からクロック入力を行った場合の効果についていろいろな場所で聴く機会があり、その効果に驚かされてきました。最初に M 谷邸で CEC の TL3N にクロック入力した音を聴いた時は PC オーディオは要らないのではないかと思われるくらいの衝撃でした。その後インフラノイズのデモでスチューダーや ESOTERIC のトランスポートへのクロック入力を聴き、さらに Mt.T2 邸で UX-1 へのクロック入力を聴かせていただいたり、TASCAM の旧型機を借用したりした結果、外部クロック入力のあるトランスポートの導入を決心しました。候補としては、スチューダーや EMT などのプロ用、ESOTERIC、CEC などが挙げられましたが、プロ用は入手難、ESOTERIC は音質が好みでないことで、CEC が妥当なところかなと思っていたところ、大阪に出店したオーディオ店のキャンペーン対象製品でマランツの SA11-S2 が手持ちの SA11-S1 の下取りも含めて購入しやすい金額になることで導入に踏み切りました。下記のように 176.4kHz までのクロックが入力できること、また SACD プレイヤーとして使ったときも外部クロックが効くことも選択の理由です。

SA11-S2 の外部クロック入力仕様

44.1kHz、88.2kHz、176.4kHz 1V - 5Vp-p (75 Ω)



2. 設定条件による音質評価

上記のように外部クロック周波数は 44.1kHz、88.2kHz、176.4kHz が選択できますので、まず SA11-S2 の外部クロック入力端子に GPS-777 からクロック入力を行い、S/PDIF デジタル出力を DAC-1 に入れて、外部クロック周波数を変えて CD を再生してみました。なお、外部クロック周波数を 88.2kHz と 176.4kHz に選択しても、

SA11-S2 のデジタルアウトのサンプリング周波数は 44.1kHz のままであり、88.2kHz、176.4kHz にリクロックされるわけではありません。

GPS-777 から供給する外部クロック周波数を 44.1kHz→88.2kHz→176.4kHz と変えていくにしたがい、音の肌理が細かくなり、ディテールの再現が向上します。反面、アタック感や音像の闊達さは引き気味になり、この辺は好みの問題となります。

さらに SACD プレイヤーとして RCA アナログ出力の音を、外部クロック周波数を変えて聴いてみました。GPS-777 から供給する外部クロック周波数を 44.1kHz→88.2kHz→176.4kHz と変えていくにしたがい、傾向としては CD の場合と同様となります。反面、エッジの立ち方は柔らかくなり、これも好みの問題となります。

3. まとめ

SA11-S2 の外部クロック周波数は 44.1kHz、88.2kHz、176.4kHz が選択できますので、音源や好みに合わせて好きな周波数を選択できることは SA11-S2 のメリットと考えられます。好みとしては、弦の細やかな表情の再現の点で 176.4kHz を採りたいと思います。SACD については、ありあわせのケーブルで聴いており、良質のケーブルを整えてから昨今出てきた評判のよい SACD 単層盤などを試してみたいと思っています。

以上